



こんどう ゆたか
近藤 豊 実行委員長
Yutaka KONDO

名古屋大学大学院医学系研究科
腫瘍生物学

【プロフィール】

名古屋市立大学医学部卒。9年間内科医として一般診療に携わったが、難治性のがんは根治できない現実を目の当たりにして、米国留学を機に基礎研究の道に進む決意をした。愛知県がんセンター研究所、名古屋市立大学を経て2017年より現職。研究領域はエピゲノムによるDNAの調節と制御機構。夢はがんに対する治療薬の開発。飲み会では、自分の体の中でほとんど機能しないALDH2の酵素活性は活性化できないのかを考えている。趣味はジョギングと楽器演奏。

【若手研究者への一言】

ひとつの論文作成に必要なとされるデータの量は益々増えています。また新しい発見の多くは、新しい技術の導入によって得られます。こうした問題を解決するためには共同研究は有効な手段です。本講習会を通じて沢山の人と知り合い、ぜひ共同研究のネットワークを拡げてください。



ふたくち みつる
二口 充
Mitsuru FUTAKUCHI

山形大学医学部病理学講座・教授

【プロフィール】

専門領域：病理学・分子腫瘍学
趣味：バイク（大型）、鉄道模型（HO）、ラグビー（観戦）、ワイン（勉強中）

【若手研究者への一言】

忌憚ない意見を言ってくれる友人を他分野で数多くみつめるように頑張ってください。



せいみや ひろゆき
清宮 啓之
Hiroyuki SEIMIYA

公益財団法人がん研究会
がん化学療法センター
分子生物治療研究部・部長

【プロフィール】

埼玉県出身。1990年東大薬学部卒、1995年同大学院薬学系研究科博士課程修了。癌研、米国ニューヨーク大を経て2005年より現職。東大新領域、明治薬科大客員教授（連携大学院講座）、理研創薬・医療技術基盤プログラム・プロジェクトリーダーを兼務。専門領域はがん分子標的創薬およびテロメア生物学。趣味は温泉・ジャズ、好きな言葉は「信頼」。

【若手研究者への一言】

これだけは誰にも負けない！という自己の強み、得意技を見つけて邁進して下さい。



たかまつ まなぶ
高松 学
Manabu TAKAMATSU

公益財団法人がん研究会がん研究所
病理部・研究員

【プロフィール】

2008年岐阜大学医学部卒
2014年岐阜大学大学院腫瘍病理学 大学院修了
大学院時代は病理学研鑽と同時に動物モデルで大腸癌の研究を実施。
2014年より（公財）がん研病理部に所属し、消化管および胆膵病理の診断を専門とし、デジタル病理画像解析に関する研究を行っている。

【若手研究者への一言】

とことん科学を追求し、妥協のない結果を目指してください。



みやかわ つよし
宮川 剛
Tsuyoshi MIYAKAWA

藤田医科大学医科学研究センター
システム医科学研究部門・教授

【プロフィール】

1993年東大文学部卒、1997年同大学院人文社会系研究科修了。博士（心理学）。理研 BSI、米国 NIH、バンダービルト大学、MIT を経て、2003年京大・助教授。2007年より現職。専門領域は行動神経科学、精神医学。趣味はランニング。

【若手研究者への一言】

What is time? What is space? くらいの疑問からスタートしてみよう！



いで そういちろう
井手 聡一郎
Soichiro IDE

公益財団法人東京都医学総合研究所
依存性物質プロジェクト・副参事
研究員

【プロフィール】

1999年京大薬学部卒、2004年同薬学研究院終了。博士（薬学）。広島国際大学、北海道大学を経て、2015年より現職。専門領域は行動薬理学。趣味は読書、油彩、競馬。

【若手研究者への一言】

「若手」の期間はあっという間に過ぎ去ります。若いうちから守りに入らず、チャレンジング精神を持って、色々なことに興味を持って下さい。



たはら ひでとし
田原 栄俊
Hidetoshi TAHARA

広島大学・副学長（産学連携担当）
大学院医系科学研究科
細胞分子生物学研究室・教授

【プロフィール】

広島市出身 1989年、東京薬科大学薬学部製薬学科卒業、広島大学で、博士（薬学）を取得、2006年から、広島大学 細胞分子生物学研究室 教授として、老化およびがんの研究を推進している。世界オンリーワン技術のテロメア G テール長の開発に成功。細胞老化に関わるマイクロ RNA を同定して、抗がん剤としての核酸医薬の応用を進めている。2021年から広島大学 副学長（産学連携担当）に就任して、様々な産学連携プロジェクトを立案している。2012年に株式会社ミルテルを起業（大学発ベンチャー）。2021年には、新たに創薬ベンチャー 株式会社 PURMX Therapeutics（パームエックス・セラピューティックス）を設立し、アスペストで発症する悪性胸膜中皮腫に対する核酸医薬治療薬を開発し、ヒトでのファーストインヒューマン医師主導治療を開始している。

【若手へのメッセージ】

何事にもチャレンジ！ オリジナリティーと独創性を見いだす研究を目指してください。独自技術・研究は、持続的な研究を助けます。



さわもと かずのぶ
澤本 和延
Kazunobu SAWAMOTO

名古屋市立大学大学院医学研究科
教授

【プロフィール】

北海道出身、1990年明大農学部卒、1996年東大大学院医学系研究科博士課程修了。筑波大、阪大、UCSF、慶大を経て2007年より現職。2021年より名古屋市立大学医学研究科脳神経科学研究科所長を兼務。2016年より生理研客員教授、2022年より豊橋技科大客員教授を兼任。

【若手研究者への一言】

私はこれまで多くの方々からの支援を受け、ショウジョウバエ、マウス、ラット、魚、サル、ブタなど様々なモデル動物を用いて、神経系の発生・再生の研究をしてきました。この講習会では、皆様との交流を通じて、若手研究者の育成に少しでも貢献することができれば幸いです。



まるやま れお

丸山 玲緒

Reo MARUYAMA

公益財団法人がん研究会がん研究所

【プロフィール】

2002年札幌医大卒、2007年同大学院修了。Dana-Farber Cancer Institute、札幌医大分子生物学講座を経て、2017年より現職。がんの多様性の本質に迫りたいと思い研究している。趣味は蕎麦前、せんべろ、町中華。

【若手研究者への一言】

努力は夢中になかない。夢中になれるものを探し出して、毎日をワクワクする時間で満たしましょう！



かねこ なおこ

金子 奈穂子

Naoko KANEKO

同志社大学大学院脳科学研究科
神経再生機構部門・教授

プロフィール

精神科の臨床医を経て、基礎研究者になりました。成熟した脳内で新しく生まれる神経細胞の精神機能との関わりや、傷害後の脳内で成熟して神経機能を再生する過程のメカニズムを研究しています。2022年4月に独立して、同志社大学で新しい研究室の運営に奮闘中です。

若手研究者への一言

研究生活はとても楽しいですが、苦しい時期も必ずあります。そんな時に、弱音を吐いたり気分転換したりできる相手や場所を持って、ストレスを受け流せる柔軟さが大事なな・・・と思っています。